

施工説明書

吹き出しユニット(吹き出し口・チャンバーボックス)

品番：FU-CR12030AD/FU-WR12030AD/FU-CB12030

この度は、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
製品の性能・品質・安全性を確保するために、この施工説明書をよくお読みいただき施工してください。

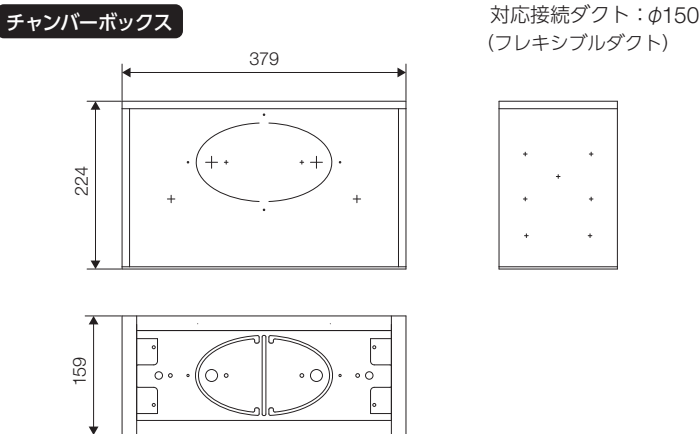
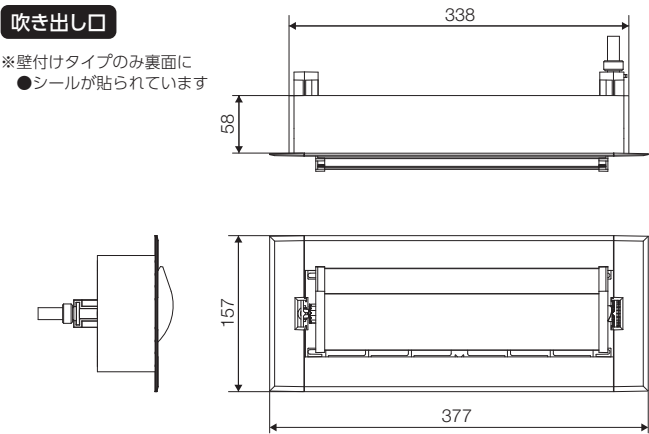
安全上のご注意 必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。
●表示内容と記号の意味は、次のようになっています。

	この記号は、禁止の行為を示しています。		この記号は、必ず実行していただく「指示」内容を示しています。
---	---------------------	---	--------------------------------

使用上の注意

	分解や改造をしないでください。製品の性能・品質が維持できない恐れがあります。
	空調用吹き出し口以外の用途へ使用しないでください。
	吹き出される空気温度が、吹き出し口部分で50℃を超える場合には使用しないでください。
	取り付けは、製品重量に十分耐えることのできる下地・場所にしてください。取り付け位置の強度が不足している場合は、落下する恐れがあります。
	台所など、油煙の発生する場所、湿気や水のかかる場所に取り付けしないでください。変形や変色・誤作動が生じる恐れがあります。
	火災報知器の近くに取り付けしないでください。火災報知機の作動に影響を及ぼす恐れがあります。
	取り付けは吹き出し口の付近に壁や天井、家具などが無い位置にしてください。常時気流が当たることにより、汚れや変色などの恐れがあります。
	吹き出し口のルーバー部分の操作は、必ず取扱説明書の内容をご理解いただいた上でおこなってください。 無理な操作をおこなうと故障の原因となります。
	チャンバーボックスや吹き出し口の風向・風量調整羽根に触れる際は手袋を着用してください。 素手で触ると鋼板の小口などで怪我をする恐れがあります。
	直射日光が当たる場所への取り付けを避けてください。変形や変色・誤作動が生じる恐れがあります。



製品仕様				
品 名	吹き出し口			
品 番	天井付けタイプ：FU-CR12030AD		壁付けタイプ：FU-WR12030AD	
寸 法	377×157mm			
材 質	本体：ABS	風向板：SUS	断熱材：ポリエチレン系	サーモエレメント：銅・真鍮
梱 包	1台/ケース			
付属品	風量測定部材（ABS）、吹き出し口取付用ビス、ワッシャー			

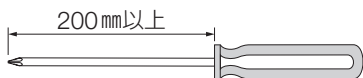
製品仕様			
品名	チャンバーボックス ※天井付タイプ・壁付けタイプ兼用		
品番	FU-CB12030		
寸法	379×159×224mm		
材質	本体：亜鉛メッキ鋼板	断熱材：ポリオレフィン系	気密材：EPDM (発泡系)
梱包	1台/ケース		
付属品	ダクト接続部材 (亜鉛メッキ鋼板、ポリエチレン発泡材)、ダクト接続部材取付用ビス		

1

施工の前に

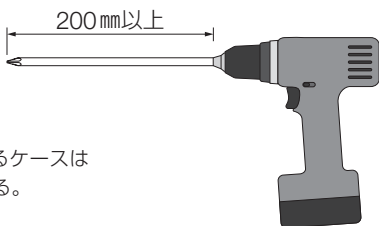
1 現場手配する工具・材料

■プラスドライバー



※軸の長さ：200 mm以上のドライバーが必要となるケースは正面より取り付ける場合『3-2-①』の施工に限る。

■電動ドライバー



チャンバーボックス取り付け用部材

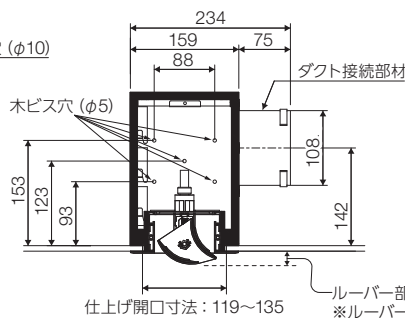
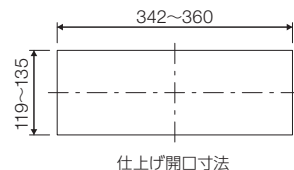
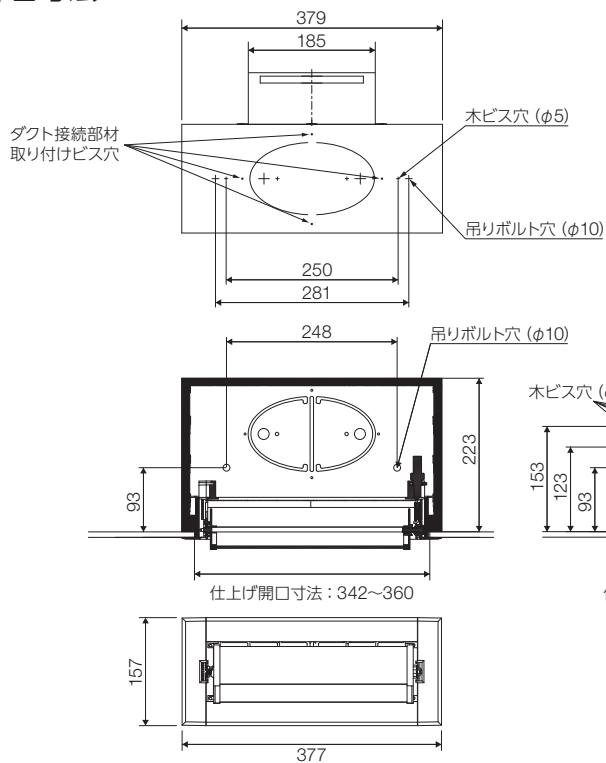
■木ビス (3.8×40 mm程度)

2～3本/1ユニット当たり

※ボルトで固定する際は、W3/8全ネジボルトを使用してください。

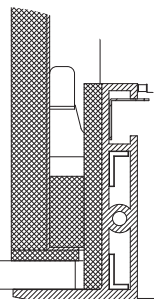
また、ボルトを使用する場合は、結露対策も併せて実施してください。

2 各寸法



チャンバーボックスと吹き出し口との間のクリアランス

8～34 mm



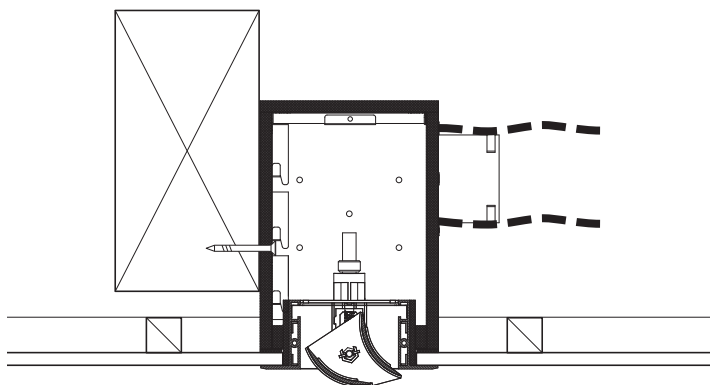
3 チャンバーボックス取り付け方法の確認

- チャンバーボックスを取り付けるための下地は厚さ 45 mm以上としてください。(現場調達)
- 木下地への取り付けは3.8×40 mm程度の木ビスを使用してください。(現場調達)
- 吊ボルトは、W3/8全ネジボルトを使用し2ヵ所固定してください。(現場調達) ※ボルト部分の結露対策は現場で実施してください。

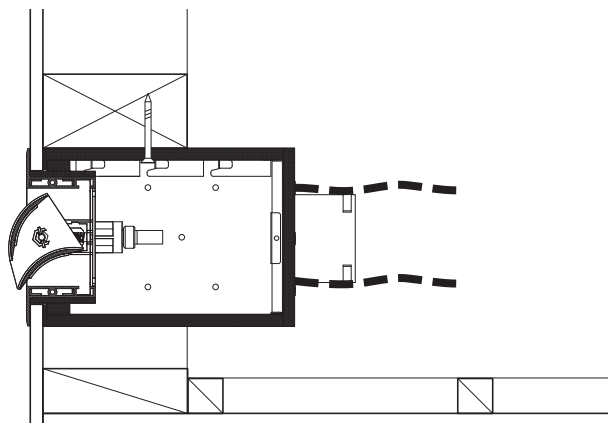
2

施工イメージ

天井付け納まり



壁付け納まり

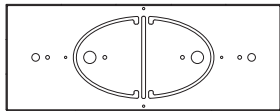


3 施工手順

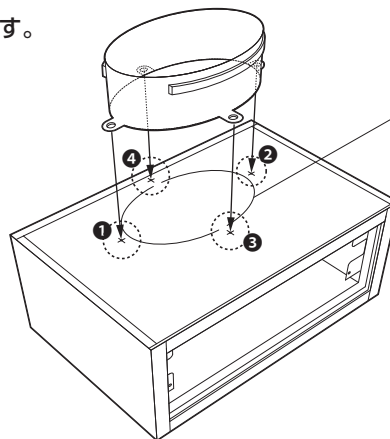
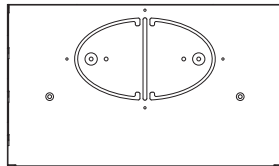
1 チャンバーボックス取り付け前の準備 (チャンバーボックスとダクト接続部材の固定方法) ① 手袋を着用

ダクト接続可能位置は“天面”と“平面”のどちらかを選択します。

天面



平面

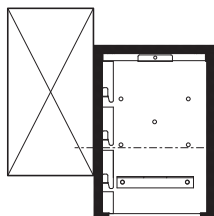


ダクト接続部材の接続位置は断熱材に楕円の切り込みがあります。

ダクト接続部材は付属のビスで固定します。長手の①、②を先行で固定し、次に③、④の穴に位置が合うよう形状を調整しながら固定してください。(断熱材のリード穴が目印)

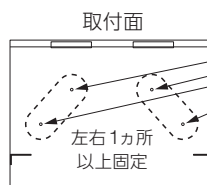
2 チャンバーボックスの取り付け (天井・壁が仕上がる前に実施する) ① 手袋を着用

① 正面よりビス固定する場合



図のように、チャンバーボックスの外側より工具を差込み木ビスで固定してください。
※工具の軸長さ200mm以上が必要です。(① - ①を参照)

200以上必要



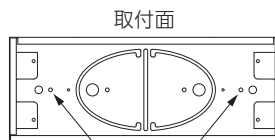
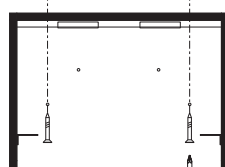
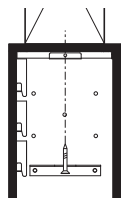
取付面

取付穴位置

木ビス2本以上で固定

チャンバーボックスの外側に工具の軸部分を通る穴があります。
※目印に十字の切れ込みがあります。

② 天面をビス固定する場合



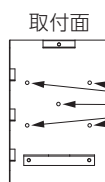
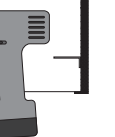
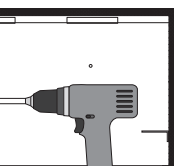
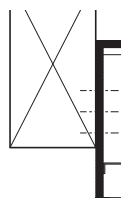
取付面

取付穴位置

木ビス2本で固定

図のように、チャンバーボックス内部に工具を入れて、木ネジで固定してください。

③ 側面をビス固定する場合



取付面

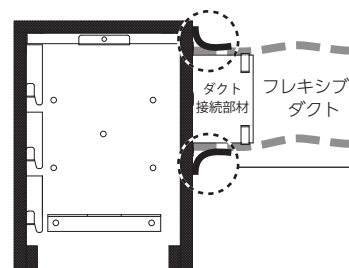
取付穴位置

木ビス3本以上で固定

図のように、チャンバーボックス内部に工具を入れて、木ビスで固定してください。

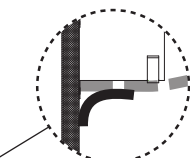
3 ダクトの接続と取り合い部の養生

ダクトはチャンバーボックスとダクト接続部材の取り合いまで差し込み、結束バンド等で固定してください。また、ダクトの保温材とチャンバーボックスの断熱材との間に隙間が生じないよう断熱の補強をおこなってください。



ダクト
接続部材

フレキシブル
ダクト



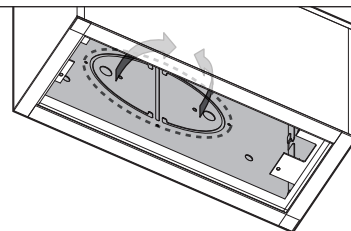
ダクトの保温材とチャンバーボックスの隙間は、断熱部材(現場調達)で隙間のないようにしてください。

4 バタフライダンパーの調整 ①手袋を着用

①ダクトを接続する部位のバタフライダンパーを内側へ折り、開口してください。

②その後、必要風量に合わせてバタフライダンパーを調整してください。

※微調整はチャンパーボックス内に手を入れておこなってください。



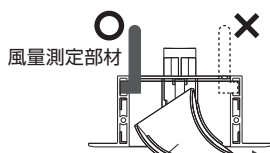
5 吹き出し口へ風量測定部材の取り付け ①手袋を着用

①付属の風量測定部材と取り付け位置を確認してください。

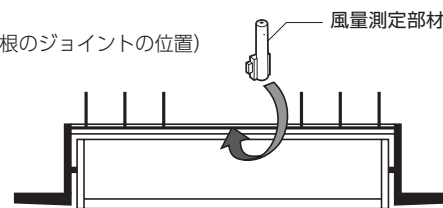
・取り付け位置は、吹き出し口の内側にある風向・風量調整羽根の設置溝中央部になります。(風向・風量調整羽根のジョイントの位置)

・取り付け面は、ルーバーの吹き出し方向と反対側にしてください。

※ルーバーの吹き出し側に取り付けると風量測定ができません。



※ルーバーの向きを確認



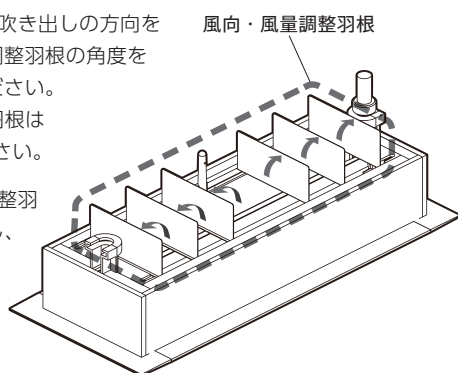
取り付け位置は▼が目印

6 風向・風量調整羽根の調整

①吹き出し口の取り付け前に、吹き出しの方向を確認したうえで風向・風量調整羽根の角度を適当な向きに立ち上げてください。

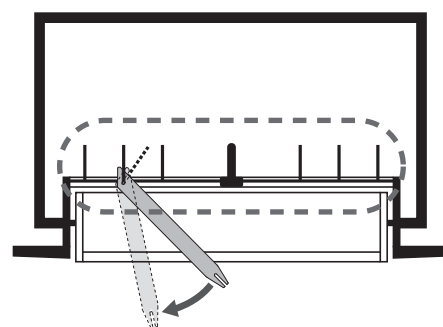
※両端部の風向・風量調整羽根は90度以上曲げないでください。

②取り付け後は、風向・風量調整羽根調整治具(別売品)を使用し、微調整が可能です。



風向・風量調整羽根調整治具(別売品)

【微調整のイメージ】



7 吹き出し口の取り付け

①ルーバーの位置を“フリーの状態”にしてください。

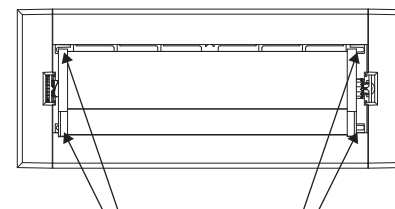
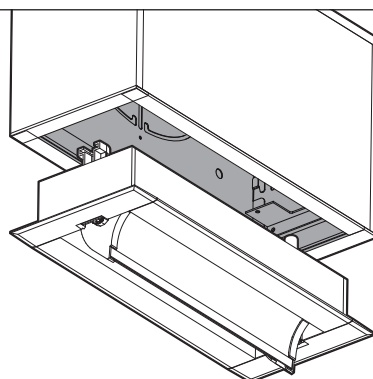
(取扱説明書“ルーバーの設定方法”を参照)

②吹き出しの向きを確認し、チャンパーボックス内部に吹き出し口を差し込んでください。

③チャンパーボックスのL字アングルに吹き出し口を付属のビスで4カ所を取り付けてください。

④吹き出し口を取り付け後、ルーバーの位置を“フリーの状態”から“自動調整”又は“解除(固定)”に戻してください。

(取扱説明書“ルーバーの設定方法”を参照)



4カ所のビス留めをおこなう。

※電動ドライバーの使用は控えてください。

8 風量測定部材による風量確認の場合

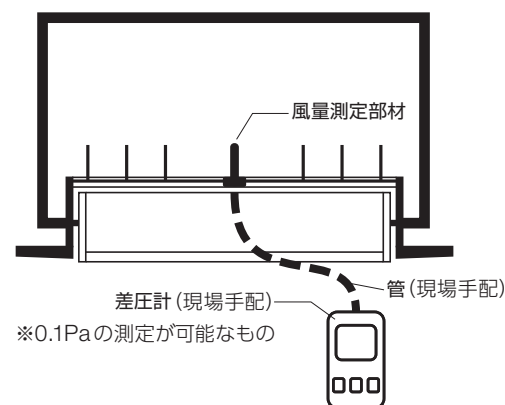
①ルーバーの向きを『取扱説明書“ルーバーの設定方法/自動調整の解除(固定)”』のA又はCの向きに固定してください。

②風量測定部材へ風量測定用の管を正面から差し込み、風量を測定してください。

※風量測定の際は、差圧計(0.1Paの測定が可能なもの)を使用してください。

③風量の調整が必要な場合は、風向・風量調整羽根の調整の内容で調整をしてください。(上記6 - ②参照)

※6 - ②で風量の調整が難しい場合は、吹き出し口を一度取り外し、バタフライダンパーの調整をおこなってください。(上記4参照)



差圧計(現場手配) ※0.1Paの測定が可能なもの

